



**Earth Attack**  
**《地球・爆》共作絵画プロジェクト**  
 岡本信治郎+伊坂義夫+小堀令子+清水洋子+松本夏+山口啓介  
 Earth Attack project  
 OKAMOTO Shinjiro+ISAKA Yoshio+KOBORI Reiko+SIMIZU Yoko+MATUMOTO Akira+YAMAGUCHI Keisuke  
 《地球・爆》第1番(部分)  
 2008年  
 戦争画を主題として極めてレアで壮大な共作絵画への冒険的な挑戦。11番まで計画され、最初の一部を世界初公開。



**母袋俊也**  
 MOTAI Toshiya  
 M377 TA-KY OB AS HI  
 2008年  
 欧州祭壇画と日本障屏画の比較研究実践として展開する"TA"絵画(偶数組)の日本画ガラスケース内への展示試み。



**山口啓介**  
 YAMAGUCHI Keisuke  
 "戦争機械"たちのドロイング  
 2010年  
 幼児化した大人たちの疑問。玩具ではなく幼年期の終わりに向けた"戦争機械"を「主題」として絵画を描く。



**藤井博**  
 FUJII Hiroshi  
 このにわかから(E たくのにわ)'09.11'  
 2009年  
 「浮遊する視線性は…」のタイトルで、ものが見えることとものを見ること、そのこと自体が主題であり方法となる絵画行為。インスタレーションも加えて行う。



**岡崎乾二郎**  
 OKAZAKI Kenjiro  
 論理のカインソウ(海底での想起あるいは忘却)  
 2010年  
 絵画が把握しようとしていたのはいつも光だった。ゆえに恋人の影をなぞったコリント人の娘を絵画の起源とする伝説に類することはできない。だが、なるほど絵画が絵画となった途端、その影(シルエット)だけがなぞられ、たちまちその存在を薄くされてきた事も確かである。



**王舒野**  
 WANG Shuye  
 ドロイング  
 2007年  
 来日後10年の準備を経て、2001年より「現代中国絵画」とは一線を画した東-西洋の融合的な絵画を探索、発表が続く。



**原田丕**  
 HARADA Hajime  
 untitled '10.5  
 2010年  
 みどりの高みから少年の見たものは、今も、目の前に在る。



**為壮真吾**  
 TAMESO Shingo  
 vermilion  
 2010年  
 まわりとの境界がはっきりしている。見えなかったそのモノが存在する風景の全体をぼんやりと眺める。



**大浦雅臣**  
 OURA Masaomi  
 記憶の籠  
 2008年  
 日本美術史家の辻惟雄先生の名著『奇想の系譜』の内容についての、僕なりの答えです。



**戸谷成雄**  
 TOYA Shigeo  
 埋井戸  
 2010年  
 日本家屋の中でどんな妄想が湧き出で、どんな彫刻が発生してくるのか、実験と冒険を試みたいと考えています。



**白井忠俊**  
 SHIRAI Tadatoshii  
 何を探しているのか忘れてしまった  
 2009年  
 「縄文土器の装飾は蛇ではないか。」日本美術の源泉である原始蛇信仰を「円筒絵画」によって表わす。



**作間敏宏**  
 SAKUMA Toshihiro  
 接着 / 交換  
 2010年  
 死者の記憶の"濃淡"や"フォーカス"についての私的叙述。"場"や"場の来歴"との共振にむけて。



**土田俊介**  
 TSUCHIDA Shunsuke  
 04-04  
 2004年  
 今はまだ批評出来ないもの、もしくは何度も誤読出来るもの。そんな作品。



**上村卓大**  
 KAMIMURA Takahiro  
 untitled  
 2009年  
 例えば遊びな場所のタグ・セールに並ぶミント・コンディションな品々。



**越智彩**  
 OCHI Aya  
 樹  
 2009年  
 巡りめぐるもの地。そこに行む。立つこと立っていられること。光を浴び、根を伸ばす。葉を茂らし、風に吹かれる。土になる。空気になる。深く呼吸をする。



**水上嘉久**  
 MIZUKAMI Yoshihisa  
 太陽の行方  
 2005年(第21回現代日本彫刻展招待出品)  
 青梅総合高校講堂内における大理石による「彫刻」のころみ

# 8<sup>th</sup> Art Program Ome 2010 たい循環の体

## 参加作家

岡本信治郎(伊坂義夫、小堀令子、清水洋子、松本夏、山口啓介)、母袋俊也、山口啓介、藤井博、岡崎乾二郎、王舒野、原田丕、為壮真吾、大浦雅臣、戸谷成雄、白井忠俊、作間敏宏、土田俊介、上村卓大、越智彩、水上嘉久

文字や身体に拠らずある考えを人に伝えようとする、絵画であろうが彫刻であろうが、素材となるものを媒介にする。作者は経験や感覚を裏づけに想像力を働かせ、試行錯誤しながら、自分でも見たことがない作品を作ろうとする。かならず、既に在るモノを避ける。鑑賞者がそんな作品を見て「解からない」というのは正直な反応である。作者自身が解かるといふ範疇をはみ出し、ひたすら、作者-作品-鑑賞者の間に漂う実体を超えた虚の部分、目に見えない「エネルギーをもった気」を感じて欲しいと願っているのだから。それは、作品というモノを通じて、そこに血液のような共感の流れが生じることを願っているとも言える。普遍的に人間の生体もっている鋭敏な感覚を蘇らせる、新しい循環のパイプを形成しようとする努力が、かたちをとった姿なのである。各作家のアプローチの違いを楽しみつつ、多様なご意見を戴けたら有り難い。

## 同時開催

Art Program Ome 2010  
**4大学学生展「リフレクションー余白との対峙」**  
 明星大学(9名)、多摩美術大学(14名)、武蔵野美術大学(15名)、東京造形大学(9名)

**10月30日(土)ー11月28日(日)**  
 展示エリア：青梅市街(本町、住江町、西分町、勝沼)、  
 都立青梅総合高等学校敷地内  
**10:00ー17:00(月曜日休み)**

主催：アートプログラム青梅実行委員会 www.art-program-ome.com  
 共催：青梅市、青梅市立美術館  
 協賛：明星大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、東京造形大学、青梅佐藤財団  
 協力：青梅織物工業協同組合、吉川英治記念館、都立青梅総合高等学校、NPO法人「青梅の青少年を育てる会」、本町、住江町、西分町、勝沼、青梅宿アートフェスティバル実行委員会、Dining Gallery 蔵蔵  
 後援：青梅商工会議所、西多摩新聞社、多摩ケーブルネットワーク、西の風新聞社  
 助成：青梅市まるごとアート支援事業  
 問い合わせ先：アートプログラム実行委員会 代表/原田丕 TEL&FAX 042-554-4963 〒205-0016 東京都羽村市羽加美 1-19-12 事務局/村井旬 info@murajun.com

**アートボランティア募集中**  
 主な作業は、会場での作品監視、来場者への案内、交流授業のサポートなどですが、作家と直に接する機会もあります。 問い合わせ先：青梅市立美術館 TEL0428-24-1195

2010年10月16日(土)ー12月5日(日)

青梅市立美術館  
 9:00ー17:00  
 (入館 16:30まで、月曜日休館、入場料=200円)

2010年10月30日(土)ー11月28日(日)

青梅織物工業協同組合施設  
 [BOX KI-O-KU, SAKURA FACTORY]  
 10:00ー17:00  
 (月曜日休み、入場料=200円、大学生以下無料)

都立青梅総合高等学校講堂

10:00ー17:00  
 (月曜日休み、入場無料)

吉川英治記念館

10:00ー16:30  
 (入館 16:00まで、月曜日休館、入場料=大人 500円、  
 中高大学生 400円、小学生 300円、チラシ持参100円引き)

## オープニング・レセプション

日時：2010年10月30日(土) 13:00ー13:30  
 会場：青梅市立美術館 1F [エントランスホール]

## シンポジウム「アートの社会性ー絵画と主題、彫刻とモニュメント」

日時：2010年10月30日(土) 14:00ー17:00  
 会場：青梅市立美術館 1F [市民ギャラリー]  
 パネリスト：北沢憲昭(美術評論家)、(以下出品作家) 岡本信治郎、母袋俊也、山口啓介、戸谷成雄、水上嘉久、上村卓大

## 原田丕によるアーティスト交流授業

青梅市立第一小学校の6年生によって制作された作品は、展覧会会期中、青梅市立美術館 1F に展示されます。

## 青梅織物工業協同組合・再生活用プロジェクトー明星大学・齋藤哲也研究室

歴史をいまに残す組合の建築群が、青梅の社会資本として、市民に開放された地域拠点になるよう整備する。

## トーク・セッション

「今展の作品について」  
 日時：2010年11月20日(土) 16:00ー17:30  
 会場：青梅織物工業協同組合 2F  
 パネリスト：鷹見明彦(美術評論家)、沢山遼(美術評論家)  
 司会：学生代表

**ガイド・ツアー**(学生代表が会場をご案内します)  
 日時：2010年11月14日(日) 13:00ー  
 2010年11月20日(土) 13:00ー  
 集合場所：青梅駅前・MOギャラリー